

令和7年度 第1回 学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立出来島支援学校
校長名	武 田 幸 造

開催日時	令和7年6月 18 日(水) 10:00～11:45
開催場所	府立出来島支援学校 4階 会議室
出席者(委員)	重田会長(大阪府教育庁教職員室)
	藤木委員(出来島地域活動協議会)、島田委員(西淀川発達支援センターたんぼぼ)
	朝井委員(株式会社あしすと阪急阪神)、石川委員(PTA)
出席者(学校)	武田校長、小野教頭、樋口教頭、木崎事務長
	花谷首席、上戸首席、和田首席
傍聴者	なし
協議資料	学校運営協議会実施要項及び学校運営協議会傍聴に関する要領
	令和7年度 学校経営計画及び学校評価
	令和7年度 使用教科用図書(選定・採択)一覧表
議題等(次第順)	
1. 校長あいさつ 2. 「学校運営協議会委員」及び「事務局」自己紹介 3. 「学校運営協議会実施要項」及び「学校運営協議会傍聴に関する要領」確認 4. 令和7年度 学校経営計画及び学校評価について 5. 令和7年度 使用教科用図書について 6. 事務連絡	
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
4. 令和7年度 学校経営計画及び学校評価について ○学校経営計画及び今年度の重点目標の具体的方策についての説明(校長) 委員) 開校後、1年経過してどうか。 校長) 授業の進め方については、各先生方が基本シラバスをもとに授業を組み立てられている。昨年度異動してきた先生方ばかりなので、このスタイルで出来島は授業するんだなということは一定定着している。ただその内容は、学習内容や評価項目は記されているが、どのようにこういった授業を展開すればそれが実現できるかは、まだまだシラバスの中身、参考資料が十分ではないこと、目標に対する認識違いも一部あるなかで、とらえ違いのないようにしていこうというのも今年度のテーマかなと思っている。授業の充実というのは一朝一夕で進まないのので、授業研究で日常の授業を補完しながらすすめていくことが必要かなと思っている。 ○出来島シラバスの運用状況についての説明(首席)	

委員)

子どもには個人差があると思うが、そこはどのように工夫されているか。

校長)

そこも大きな課題で、もう少し大きな学年集団なら教員数も多くなる。教員数が多ければ、一つの学年でグループ編成をたくさん分けられる。本校にはシラバスがあり、段階ごとにその学年で取り扱うことは示されているが、高等部でも小学部1段階の内容を学ぶ生徒から高等部2段階の内容を学ぶ生徒までの7段階のシラバスを使う可能性がある。本来なら7つの学習班を展開しなければならない、ということになる。しかし、正直どの学年もそこまで細かい学習展開ができないので、1つのグループにいろいろな課題がある子が所属している。全体の授業と、個別の課題という工夫で授業展開はされているが、個人的な感想としては主体的で対話的な学びということが言われているので、同じグループに違う段階の子どもたちが学んでいても、ある一定子どもたちどうしで関わりあいながら高めあいながらといった場面があって、みんなで学んでいる授業になるのがいいなと思っている。

委員)

高校での経験から、ベテランの先生が若い先生の授業を見に行き指導することや、違う教科、自分が新鮮で見たと思った授業を見に行くこともある。例えば国語の先生が体育の授業を見たら開放的な雰囲気参考になったというようなことがある。若い先生が授業を見に行けるような仕掛けはされているのか。

校長)

授業研究の風土を作っていこうということで、研究授業対象の学年の先生だけが見に行くのではなく、全教員がどこかの研究授業に参加するというので、学部を超えて、小学部の先生が中高の授業を見る、中高の先生が小の授業を見に行くというのは昨年度実践をして、今年度も実践していく。研究協議の場ですべての学年の先生が揃った中でテーマを決めて、授業の評価ではなくこの授業をどうしていくのかという視点で協議していくというスタイルでやっている。

○運動会・体育祭での異学年合同競技の様子を紹介(首席)

委員)

体育祭で高1と中1と一緒に競技していて、前籍校では経験のなかったこと。アイデアの背景は？

校長)

本校は「であい、きずな、じりつ、まなび」を標語とする学校教育目標を掲げていて、こういうことをしたら面白いかな、一緒にできたらいいよね、一緒に先輩とがんばりたいなとか、あこがれが芽生えるといいなという発想から、準備室の時から考えていた。同じ競技をすることで中1のときは高1のお兄さんお姉さんたちにあこがれて、3年後にはそれを次は後輩に自分たちがするということが3年ごとにめぐってくるというのがとてもいいんじゃないかなということでペアを固定し、競技も固定して実施することにした。

委員)

この取り組みはすごくいい。企業の中でも、入ったばかりの社員としっかり仕事をしている社員がいる場合、指導員が伝えるよりも先輩が言うことだったら、ああそうかと聞いてくれる場面はあるので、近い、あこがれる気持ちの中で自分もやってみるという気持ちが育つというのはいいなと思った。

委員)

清掃活動や職場体験的な視点からもご意見いただきたい。

委員)

地域の人権啓発の研修会では、いい形で地域の方との交流ができて良かった。陶器の販売も好評で地域の方と話をしていて、楽しみだなあと。私も買いたいという声があったので、また機会があれば。

校長)

農作物、野菜が高騰しているので、定期市みたいなのができればいいなと思っている。土地がやせているので十分に収穫できるものが少ないが、畑を育てることも校内で取り組み、コミュニティ会館、地域と連携しながら定期的に提供できるようにしていきたい。

委員)

地域でいろいろな行事やっているなので機会があれば出品していただきたい。朝、ウォーキングしていて畑も大分畝ができていてよくなっているなど見ながら歩いている。

委員)

学校の清掃を学習としてされているということだが具体的にはどんなことをしているか教えてほしい。

首席)

本格的な道具を使ったテーブル拭き、フロア清掃、乾式モップ、ワンタッチモップ、ウィンドスクイジーを使った窓ふきといった個人作業によるものと、グループで行う教室清掃、使用できるようになった道具をみんなで協働しながら、自分たちで工夫して効率的にどうやって清掃するかというグループワークを重ねて、少しずつ技量を高めて、高等部での地域の清掃活動につなげたいと思っている。社会に出る前に先輩と後輩の関係を作って授業をする。これもひょっとしたら出来島スタイルなのかもしれない。

委員)

生徒たちに実際関わって支援していただくこともあると思うが、その視点からご意見をお願いしたい。

委員)

実際に清掃の仕事をしているメンバーたちが、決められた手順で一日の清掃をきちんとやりきることの他に、清掃している時は一人のようで、実はお手洗いだと、利用されるお客さまが来られたり、フロアだと職員やほかのお客様が通られたりする場面があるので、一生懸命掃除をするだけでなく、周囲にふと気が付いて譲って使っていただく、「おはようございます」と挨拶をする、そういうことをできるようになってほしいと伝えている。

みんな一生懸命作業しているが、集中してしまったり回りが見えなくなって、ぶつかってしまうこともあるので、バランスというか両方をぜひ最終的にはできるようになってほしいと社員には伝えている。

また、日常生活が安定していることは何よりも大切なので、特に今の時期だと清掃の仕事も熱中症が心配されるところで、職場で水分摂ってねとは伝えられるが、しっかり寝てきてねは家でないとできない。家でできることをしっかりしてきてほしいと伝えている。

委員)

ご意見にもあったように、人とかかわりがきっちりできるという経験をよりたくさんしてもらうことが、出来島支援が取り組んでいる活動に含まれている。どんどん知らない人と関わる場面を校外で実現していただけたらと思う。そのためには地域の方々と一緒にやっていくものを増やさないといけない。今後、いろいろな学校とも連携もされると思うが、地域の小学校・中学校含めて連携を深めていってもらったらいいかと思う。

○中学部2年生、高等部2年生合同で実施予定の宿泊学習の紹介(首席)

委員)

説明の中に個人備蓄という言葉があったが？

首席)

学校から帰宅できない非常時に備えて、各家庭から水や食糧品を備蓄袋に入れて学校に預けておくということをしている。個人の備蓄袋には水、本人が食べられるお菓子や、温めずに食べられるレトルト食品、カンパンなど

が入っていて、薬が必要な人は薬も入れている。それを教室の鍵付きロッカーに保管している、というのが個人備蓄。

校長)

不安なときにこれがあったら大丈夫といった、個人用の安心グッズを入れている家庭もある。

委員)

名称は違うが、この頃企業でも食べ物や大切なもの、薬などを自分のロッカーに備えることが推奨されている。企業としての備えを始めているところもある。特に支援学校のお子さんたちは薬のいる子も在籍している。防災の面から、宿泊学習では、地域の方にもちょっとしたぞきにきていただければ。

校長)

地域からも防災担当、また、近隣の方も何人か応援にかけつけていただけることになっている。ありがたい。

委員)

昨年一年は開校年度で先生方の気持ちも走れたと思うが、2年めになるとやはり疲れも出てくるので、3年めにむけてちょっとゆったりと考えていってほしいと思っている。

先生方がコミュニケーションをとれて、余裕を持って本音で話し合える、信頼しあえることが必要だと思うので、どこかで息抜きができないといけないし、どこかで本音を言いあう部分があるし、どこかで愚痴を聞いてあげるところもある、というような人間関係作りもしながら仕事をしていけるようにしていただくのがいいのかなと思う。

真面目な校長先生はどんどん走るの、まわりで止めないといけないということもどうぞ覚えておいてほしい。

○今年度使用している教科用図書の説明、紹介(首席)

委員)

男の子と女の子の体の違いなどの学習が必要だと思うが、何か教材として使っているものはあるか。

首席)

性に関する指導(心と身体の学習)については、昨年度 PT を設けて取り組みの方向性、全体計画を設けたところ。今年度は、全体計画をシラバスに落とし込んで、何年生ではこれを、何段階の人はこんなことができたらいいな、中学部になったらこんなことができたらいいなといったことを各教科で取り組む内容を確認していく。現段階では、個別に言葉かけしたり、全体の授業で人との距離や遊び方に気をつけようとか、日常的にクラス、学年で取り組んでいたりするという状況。

首席)

道徳の本にも友だち付き合いの内容があり、職業の中にも結婚して暮らす、といった内容が取り扱われている。もちろん保健体育にも。

教頭)

小学部では生活や道徳の授業の中で取り組まれていて、高学年対象に、授業で体に起こる変化を養護教諭から話をしてもらったりしている。

次回の会議日程

日時	令和7年 10 月～11 月頃
会場	府立出来島支援学校 4階 会議室